

学校教育目標	自ら学び、自ら考え 協働できる 心豊かな生徒の育成	ミッション	「地域から大切にされ、信頼される」教育 の推進	ビジョン	「胸を張れる学校」の校風づくり
--------	---------------------------------	-------	----------------------------	------	-----------------

評価計画							学校関係者評価								
中期経営目標	短期経営目標	目標達成の方策 (具体的な実践)	評価指標	目標 値	達成値		評価	結果と課題の分析	改善策	担当者	評価			コメント	
					10月	2月					イ	ロ	ハ		
確かな学力	主体的に学ぶ生徒の育成	○主体的に学習に取り組む態度の育成をはかる。 ○基礎基本の定着と論理的思考力・表現力の育成をはかる。	標準学力調査正答率30%未満の生徒の割合が9%未満の教科数	10/15	-	11/15	A	標準学力調査正答率30%未満の生徒の割合が9%未満の教科は、15教科中、11教科で目標を達成。「活用」問題の正答率が全国平均以上の教科は、14教科で目標を達成。	「教え合いではなく、聴き合い」という新たな視点で、深い学びを生み出す授業づくりを進めていく。また、よりいっそう基礎基本の徹底を図る。特に積み上げ教科における1年生での基礎基本を徹底する指導。2、3年生でつまずいている生徒への支援の工夫を行う。	B	○		全体的には、教員のそれぞれの取組によりよく力を付けてくれていると思う。ゲームの時間が学習時間と深く関わっていると思うが、家庭でのルールを作るなど呼びかけを継続していく。 理科が突出して良い。なぜ、このように結果が出るのか、日常の授業の中の良いところを他教科でも指導にいかしてほしい。		
			標準学力調査の「活用」問題の正答率が全国平均以上の教科数	10/15	-	14/15									
			生徒質問調査紙において、「授業では、自分の考えを出して議論に参加しています。」の項目での肯定的回答	80%	100%	100%	C	3年時の英検3級合格者数の割合は20%(達成率40%)。重複を除く英検・漢検・数検の受検率は59.8%(達成率99%)であった。	各種検定では受検の呼びかけの工夫により受検者数が向上したことから、今後も継続する。特に、英語検定については、各学年における目標を設定し3年時3級取得者50%に近づけるよう取り組む。						
			英検3級合格者数の割合(3年時)	50%	40%	40%		家庭学習に関する生徒質問紙における4段階の4の評価は、50.6%であり、全体では7月から変わっていない。(達成率84%)						生徒会と、生徒指導部の取り組みをつなげ、生活習慣の見直しを図る取組を進める。	
自ら目標を設定し、挑戦する意識の高揚	英検・漢検・数検の受検率	60%	83%	99%	B	家庭学習に関する生徒質問調査紙における4段階の4の評価	「規程三原則が身に付いている」における4段階の4の評価は66.1%であった。肯定的に捉えている生徒は多いが胸を張って言える生徒が少ない。	「規程三原則」「学習環境」については引き続き、生徒会を中心に取り組んでいく。さらに、職員による取組も行い、学校全体で取り組んでいく。	B	○	不登校の生徒も学校とのつながりを維持しながら登校できる方向に向っている。引き続き、丁寧に対応していくことが求められる。いじめの認知件数は少ないが、生徒がSOSを発信できるようになっていることは、大変素晴らしいこと。人間関係を構築する取組を継続してほしい。				
家庭や生徒会活動と連携した、家庭学習習慣の定着	英検・漢検・数検の受検率	60%	84%	84%		学習環境においては、アンケートをとった全ての方から肯定的評価をいただいている。	いじめについては、現在2件認知している。					表彰については、さまざまな応募に積極的に参加するとともに、生徒の行動をより観察し、校長賞をさらに挙げていく。			
豊かな心	郷土愛を体現できる生徒の育成	○規程三原則を身に付け、態度で示す生徒の育成 ○教員の態度を上げていじめをできるだけ認知し、いじめの早期発見・解決による安心した学校生活 ○安心・安全に学習、生活できる環境づくり	「規程三原則が身に付いている」における4段階の4の評価	70%	91%	94%	B	「規程三原則が身に付いている」における4段階の4の評価は66.1%であった。肯定的に捉えている生徒は多いが胸を張って言える生徒が少ない。				「規程三原則」「学習環境」については引き続き、生徒会を中心に取り組んでいく。さらに、職員による取組も行い、学校全体で取り組んでいく。	B	○	不登校の生徒も学校とのつながりを維持しながら登校できる方向に向っている。引き続き、丁寧に対応していくことが求められる。いじめの認知件数は少ないが、生徒がSOSを発信できるようになっていることは、大変素晴らしいこと。人間関係を構築する取組を継続してほしい。
			外部評価による学習環境に対する肯定的評価	90%	100%	100%									
			面談週間やアンケート調査による早期実態把握と迅速な組織的取組	いじめを認知し解決した件数	100%	100%	100%	A	いじめについては、現在2件認知している。	表彰については、さまざまな応募に積極的に参加するとともに、生徒の行動をより観察し、校長賞をさらに挙げていく。					
生徒の自己肯定感、自己有用感を高める取組	校長賞や作品募集等で表彰された生徒の割合	70%	50%	77%	C	表彰については現在46名表彰している。昨年度に比べると校長賞の割合が少ない。									
信頼	保護者や地域とともにある学校づくり	○目指す姿を保護者・地域と共有し、連携・協働のもと学校運営を図る	実行委員会を立ち上げ、保護者、地域と共に創り上げる。20周年記念行事の実施。	100%	100%	100%	B	20周年記念行事実行委員会を立ち上げ、6回の実行委員会を経て当日を迎えた。また、文化祭の開催にあたり、女性会の方々に案内を発送する等例年以上に幅広く来場を呼び掛けた。どちらの行事にも多くの地域の方々に来場いただくことができた。	創立20周年記念行事を兼ね、地域と共にある学校を目指し、多くの方に来校していただくことができた。次年度に向けて、もっと多くの方に生徒の様子を見ていただけるよう、案内の発送先を再考していく。	B	○	地域から、特に高齢者の方にとっては学校は敷居が高いと感じる、と言う声もある。参観日等の案内に祖父母が来校しやすくなるような一文を追加してはどうか。地域にとって大切な学校であるだけに、更に多くの方が来校できるようにと良い。			
			文化祭、20周年記念行事への保護者及び地域の参加者	150人	91%	88%							学校からの情報発信も様々な行事について発信することができた。加えて、多方面に及び地域連携を行うことで、生徒の郷土愛を再興することができている。		
			学校だより、HP等による情報の発信及び地域等との連携・協働	学校だよりの発行回数 HPの更新回数 30回	15回 80回 30回	90%	100%	A							
働き方	教職員の心身の健康保持と生徒と向き合う時間の確保	○部活・教科指導・気になる生徒への声かけ等、生徒とかわる時間の確保	部活動休養日の実施回数	3回	100%	100%	A	部活動一斉休業日は、月中行事に位置づけることにより、確実な実施とすることができた。定時退校については、定期的な実施にはなっていないが、1月末現在で20回は実施することができた。	部活動休業日については、次年度も週2日を確保しながら計画していく。定時退校については、保護者との連携の取り方について、理解を求められるよう再考する必要がある。	A	○	生徒と関われる時間が出てきているのはうまく業務改善が進んでいると思うことであろう。今後も生徒のためにを第一に進めてほしい。			
			定時退校日の実施回数	20回	70%	100%									

【自己評価 評価基準】※目標値に対する達成状況
 A: 100≦(目標達成)
 B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80
 D: (できていない)<60

【学校関係者評価】
 イ: 自己評価は適正である。
 ロ: 自己評価は適正でない。
 ハ: わからない。